

日本でも様々な娯楽があるように、バンングラデシュにも様々な娯楽があります。ただ、日本のそれとは少し違うものもあるようですので、今回ご紹介しようと思います。

【おしゃべり】

町を歩いていると、路上のお茶屋さんに座って男性4、5人で話をしている姿を目にします。横を通ると、「ちょっと茶でも飲んでいきなよ！」と声をかけられます。村の家々を歩いていると、家事をしながらおしゃべりをしている女性たちを見かけます。また、バンングラデシュでは携帯電話がとても普及していて、1人1台と言っても過言ではありません。そして、バンングラデシュ人は携帯電話でも話をするのが大好きです。

【テレビ】

電気がギリギリある農村部でも、携帯電話の充電器とテレビはほとんどの家庭にあります。また、お茶屋さんにもテレビがあり、日本に白黒テレビが来た時の様に、多くの人たちがテレビを見ている光景を良く見かけます。

【映画】

日本で娯楽と言ってあげられるものに映画鑑賞があると思いますが、本国の人たちも映画を見るのが好きです。私の任地も結構小さい町ですが、それでも映画館が3つほどあります。ちなみに、日本ではあまり見ない、バンングラ・インド映画などが人気です。

【ケルモ】

道を歩いていると、四角い板の上に白黒のおはじきのようなもので遊んでいるのを見かけます。ルールは色々あるのですが、ビリヤードの様に1つのおはじきでもう一つにあてて四隅の穴にいれるというのが主流のようです。



バンングラデシュのビリヤードおはじき『ケルモ』

【小舟、魚釣り】

毎年雨期になると畑や田圃が水につかる本国では、男の子であれば、ほぼ誰でも小舟の漕ぎ方を知っています。自家用小舟で川に出かけ、ゆっくりとただ川に浮かんで時間を過ごしたり、魚釣り、魚捕りをしたりして余暇を過ごしている人もいます。

【歌、ダンス】

以前、音楽の回でも紹介しましたが、本国の方は歌やダンスがとても好きです。時々町のお祭りなどで歌やダンスがあると、それを見るためにたくさんの人がお祭りに訪れます。



お祭りで歌を歌う女の子

これ以外にも、まだまだ沢山の娯楽がありますが、本国の人たちには本国の人なりの娯楽もあって、その世界観が楽しくなってきた赴任後1年10ヶ月目です。



次回は「活動報告①」がテーマです



田中啓子 (たなかけいこ) 1983年生まれ (池之園) 2011年1月よりバンングラデシュ人民共和国にて隊員 (村落開発普及員) として活動中。